

備えあれば憂いなし！みんなで楽しく徒歩訓練

六ツ川四丁目町内会

六ツ川大池

六ツ川四丁目町内会では、地域活動への参加者を増やしていこうと、子どもを対象としたイベント等を通じ、保護者を含む若い世代との交流を図っている。

2019年11月の「子どもふれあい体験スクール」では、子どもたちが防災について学ぶためのイベントを実施。当日は、町内の小学生から高齢者まで約40名が参加して、災害時に交通機関が止まって移動手段がなくなった場合を想定した徒歩訓練が行われた。子どもたちが楽しみながら訓練ができるよう、「災害時帰宅支援ステーション」のステッカーなどを探しながら歩き、六ツ川から約3時間で目的地である山下公園に到着した。

こうした取組に、地域の大人と子どもたちが一緒に参加することで楽しく異世代交流をすることができ、また地域全体の防災力向上や地域力向上にもつながっていく。



今後も当町内会では異世代交流ができるイベントとして、ボウリング大会やミステリーツアー等を実施予定で、町内での顔見知りを1人でも増やすために、子どもから高齢者まで楽しみながら参加して貰いたい、と思っています。
(六ツ川四丁目町内会 会長 武藤様)

防災訓練も
ちょっとした工夫で、
こんなに楽しく
なるんだね!



地域防災拠点間で連携した訓練 ～情報を横につなげる～

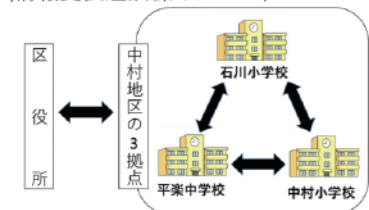
中村地区の地域防災拠点 (石川小学校・中村小学校・平楽中学校)

中村

中村地区にある3つの地域防災拠点(石川小学校・中村小学校・平楽中学校)では、拠点間の連携が図れるよう工夫した訓練が行われている。2014年度から拠点訓練を同日に行い、デジタル移動無線による合同の情報受伝達訓練に取り組んでいる。

2019年度の訓練には、3拠点合わせて約300人が参加。発災時を想定し、区役所からの情報や各拠点の開設状況、避難者数など様々な情報を拠点間で相互に共有した。拠点が横につながることによって、避難者の様々なニーズなどへの柔軟な対応も可能となる。

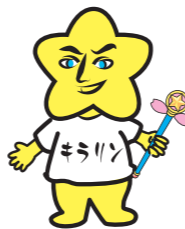
〈情報受伝達訓練イメージ〉



こうした3拠点の連携した訓練は、地域全体の結びつきを強め、日常生活での顔の見える関係を築ききっかけとなっている。

いざというときに地区内の地域防災拠点が連携する環境づくりが進んでいることを心強く感じています。この訓練が各々の自治会町内会にとっても学びの場となり、地域全体の防災力の向上につながっていくことを期待しています。
(中村地区連合町内会 会長 吉井様)

地域防災拠点の
間で情報共有が
できると地域の人も
安心だね!



地域の笑顔をお届け 南区ソーシャルマガジン

キラリ

南の風はあったかい

相手を思いやりながら
さまざまな工夫をこらしながら
つながりを持ちながら

「キラリ」では
そんな素敵な取組を御紹介します

Vol.6
2020.2



◆蒔田っ子学援隊

蒔田小学校に通う子どもたちが安全に登下校できるよう、2019年7月から見守り活動を始めた蒔田っ子学援隊。この日もまた、緑のベストを着用した学援隊の皆さんが通学路の様々な場所に立ち、笑顔で子どもたちを見守っていた。今後も楽しく活動が続けられるよう、情報交換や話し合いも行っている。詳しい様子は次号をお楽しみに。

担い手も参加者も笑顔になれる集いの場

太田東部ひよっこり茶屋

エリア 太田東部



地域の身近な場所に誰でもひよっこりと顔を出せるような集いの場が必要。そんな思いから、ドンドン商店会の津田食堂では月に一度「ひよっこり茶屋」が開催されている。

活動には、太田東部地区内の全町内会が協力し、3班に分かれて運営している。そうすることで、担い手の負担も減り、それぞれの町内会が一丸となって活動できるようになった。また、当番ではない日も、地域の方を誘って参加し、たくさんの方の外出するきっかけを作っている。さらに昨年5月、会場が遠く、日頃参加できない方のために、清水ヶ丘病院で「出張版ひよっこり茶屋」を開催したところ、赤ちゃんから高齢者まで多くの方が集まった。

運営する方々は「私たちも地域の方とおしゃべりできて楽しく活動ができている」と笑顔。今後も様々な世代の方が交流できるようなイベントを開催していきたいという。



毎回参加される方が見えないと、どうしたか心配な時もありますが、皆さんの笑顔が活動の励みになっています。これからも色々なイベントを開催して、皆さんに喜ばれるよう取り組んでいきます。

(太田東部ひよっこり茶屋 会長 濱中様)

地域の商店街や病院との連携でサロン運営。キラリンも参加したい!



青いベストは安心の証。地域で見守る登下校

おおおか学援隊

エリア 本大岡 (大岡小学校エリア)



お揃いの青いベストと帽子を着用し「おはよう、いってらっしゃい」「さようなら、気を付けて帰ってね」と、笑顔で子どもたちに声をかけ、登下校の見守り活動を続けている「おおおか学援隊」の皆さん。

また、学校行事や授業にも積極的に関わっており、この日は学援隊の皆さんが先生となって1年生と一緒に通学路探検をしながら危険な場所などを教えていた。

発足してから十数年…「できる人ができる時に」をモットーに、学校や保護者の方たちと連携をしながら、無理なく活動することが長く続ける秘訣だという。

今ではすっかり成長した卒業生からも、街で会えば声をかけられたり、近況報告があったりと、ここで育った子どもたちにとって学援隊の皆さんはいつまでも優しく見守ってくれる大切な存在なのだろう。



子どもたちを事故や犯罪から守ることを第一に考え、毎日、子どもたちから元気な笑顔を受けながら、活動をしています。各会長のご尽力もあり、今日まで活動が長続きしています。

(おおおか学援隊 中馬様)

長く続ける工夫が素敵! 子どもたちの笑顔もずっと続くね。



「無事です！」のサインは傘?! アイデア光る防災訓練

日枝東部町内会

エリア お三の宮



日枝東部町内会の防災訓練では、2018年度から家の玄関先に傘を出して無事を知らせる取組を行っている。

町内に住む方々の安否を確認するために、どこの世帯にもある傘を使って簡単にできる方法として訓練に取り入れた。

訓練当日は、傘を出している世帯数がどれくらいあるのかを把握するため、20名程の参加者がいくつかの班にわかれ、地図を見ながら町内を回った。訓練後「多くの高齢世帯にこの取組が浸透すれば、発災時の混乱した状況の中でもより早く安否確認

を行うことができるのでありがたい」という声が聞かれた。

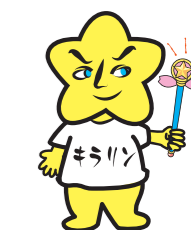
2018年度は1丁目のみで行った安否確認訓練だが、今年度から2丁目も加わるなど、広がりを見せている。誰もが協力しやすく、手軽にできる訓練を取り入れることで、町内全体の防災意識向上につながっている。



毎回出る訓練後の反省会を活かし、今後協力者が増えるよう、声をかけていこうと思います。また、この訓練を継続して行うことで、マンションも含め町内全体に取組が浸透していくと良いなと思います。

(日枝東部町内会 会長 豊田様、防災部長 宮沢様)

誰にでも簡単にできる防災訓練。身近にある傘を使う発想がイイネ!



美味しいコーヒーとおしゃべりで笑顔あふれる見守り活動

中里第二自治会

エリア 大岡



町内に住む約30名の方が集まり、楽しそうな笑い声や歌声が聞こえてくるのは、中里町友会館。この日開催されていたのは「いっとき避難場所サロン」だ。

中里第二自治会では、災害時に備え「災害時要援護者支援委員会」を立ち上げ見守り活動を続けてきたが、日頃、家の中だけで一日の大半を過ごしている要援護者と支援者が集い、楽しく交流する場があれば…という思いから、2017年度に「いっとき避難場所サロン」を始めた。会場まで足を運ぶのが困難な方には、自治会

の車で送迎を行っており、できるだけ多くの方に参加してもらえるような工夫もしている。

参加者からは「ここで知り合った方と普段から挨拶をするようになった」などの声が聞かれ、災害時だけでなく日頃からつながることで、お互いに安心して暮らせるまちづくりを進めている。



災害時、一人で安全な場所へ避難できない方の見守りについて「ここは地域の出番!」だと思い、自治会で活動を始めました。試行錯誤の約10年、支援委員とサポーターの力で、何気ない見守り活動が地域に広がっています。

(中里第二自治会 会長 鈴木様)

見守りから外出のきっかけづくりまで。みんなが参加できて素敵!

